

国語総合 意欲的に漢文を学習する態度を涵養する授業の試み

—杜甫の漢詩を題材にした高大連携授業の実践—

国語科 戸田康代

毎年、第一学年の国語総合の古典を担当すると感じることは、古文と比較して、漢文に苦手意識を持っている生徒が多いということである。これは、これまで担当してきたどの学年でも同じような傾向であり、授業の反応や、定期考査や校外模試の得点率においてもよく表れている。

昨年度、第一学年の国語総合の古典分野を担当するにあたり、生徒達の漢文への苦手意識を払拭し、漢文世界に興味・関心を持ってもらうための一つの試みとして、愛知教育大学国語教育講座の堂園淑子先生に漢詩についての講義をしていただく授業実践を行った。その実践を報告する。

<キーワード>国語総合 漢詩 杜甫 高大連携授業

1. 実践の動機と目的

中央教育審議会においては、「古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている」「古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらない」（「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編」より）とある。高等学校の国語総合及び古典においては、漢文、漢詩を学習するが、生徒たちの漢文・漢詩への取り組みは、句法や漢詩の形式、語句の意味、読みなどの暗記に終始している者が多い。また、それができるかできないかで、生徒自身が漢文に対する自己評価を決めているようにも見受けられる。また、古文に比べて苦手意識が強い生徒も多い。生徒たちに、古文と漢文についてそれぞれの印象と好悪について質問した。結果は次の通りである。

項目 9 現時点で古文は得意ですか。	1	とても得意	2	2.7%
	2	まあまあ得意	15	20.0%
	3	どちらでもない	18	24.0%
	4	あまり得意ではない	23	30.7%
	5	得意ではない	19	25.3%
項目 10 現時点で漢文は得意ですか。	1	とても得意	2	2.7%
	2	まあまあ得意	13	17.3%
	3	どちらでもない	17	22.7%
	4	あまり得意ではない	25	33.3%
	5	得意ではない	20	26.7%
項目 7 現時点で古文は好きですか。	1	好き	16	21.3%
	2	まあまあ好き	22	29.3%
	3	どちらでもない	19	25.3%

項目 8 現時点で漢文は好きですか。	4	あまり好きではない	13	17.3%
	5	好きではない	7	9.3%
	1	好き	7	9.3%
	2	まあまあ好き	22	29.3%
	3	どちらでもない	23	30.7%
	4	あまり好きではない	16	21.3%
	5	好きではない	9	12.0%

得意かどうかについては、古文を得意と思う生徒が多少多かったものの、得意でないと答えた生徒の割合は古文、漢文とも変わらなかった。好悪については、古文は好きの割合が多いのに対して、漢文はどちらでもないの割合が多かった。漢文に対する好悪については、後述のとおり、中学までの学習で漢文の判断がつくほど触れてこなかったこと、そもそもの興味の有無を判断できるほど漢文・漢詩についての素養がないことが原因かと推測する。

漢文・漢詩は、私達の生活の中にその考え方や感性が溶け込んでいるものも多くあるのだが、普段の生活では、一見それとは受け取ることができず、学習が暗記中心になってしまうのも、興味・関心が持ちにくい原因の一つであると思われる。そのため、漢文・漢詩の内容の深遠さを理解して楽しんだり、さらに、現在の文化や感性、自身の体験などと照らし合わせて、自分の理解や世界を広げていったりすることなどに至っていないのが現状である。そこで、高大連携授業の一環として、高校の授業で漢詩の基本を学習した上で、愛知教育大学国語教育講座の堂園淑子先生に講義をしていただき、生徒の漢文・漢詩に対する興味・関心がどれほど変化したかを検証した。

2. 実践の実際

(1) 特別講義当日までの経過

まず、授業で漢文の基礎（漢文入門→故事成語）を終えた夏に、堂園先生と打ち合わせを行い、3月に盛唐の詩人、杜甫についての講義を行っていただくことを確認した。

生徒への授業での漢詩の導入は12月2学期期末考査後から行った。使用教科書は、『国語総合 改訂版 古典編』（大修館書店）である。詩型、漢詩のきまりを確認した後、「静夜思」（李白）、「送元二使安西」（王維）、「春望」（杜甫）、「香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁」（白居易）の4つの漢詩の授業を行った。

このうち、杜甫については、堂園先生に講義を行っていただくことを念頭に置き、ごく簡単な紹介（盛唐の詩人、「詩聖」と呼ばれること）を国語便覧を用いて説明し、さらに、略歴・年譜の中から「春望」の理解に必要な事項（安史の乱に巻き込まれて軟禁されたこと）を確認した。

また、「春望」の授業では、詩型、押韻を確認してから、中国語での漢詩の朗読を聞かせ、現代語訳は逐語訳程度にとどめ、詩中の語句の説明の中では、「更短」はストレスからの脱毛にあたるかな、髪と冠をピンで留めて冠を支えるから、髪が少ないと大変なんだよ、などと雑談を行い、対句を確認し、どんな思いを詠んだ漢詩かを考えさせて終わった。最後の問については、今後の予告を兼ねて、敢えて、発表させたり、まとめをしったりはしないでおいた。所要時間は1時間弱である。生徒に、「なぜ「家書」が「万金」に「抵」たるの？」「万金」ってどんなことを言っているの？」と尋ねたところ、「捕らえられていて会えないから」、「貴重な価値のあるもの」という回答が出た。生徒の回答は、深くはないが、基

礎的な高校の授業の時点でも、この漢詩が大変な状況で詠まれたんだ、とは感じていたようである。

(2) 特別講義当日

学年末考査後の3月5日、堂園先生にご来校いただき、担当する1-2、1-4の80名に対して特別講義をしていただいた。2時間連続の授業時間を確保し、時間は大学の授業と同じ90分で行った。内容、難易度については事前に堂園先生と情報交換を行い、高校で行った授業内容をお伝えし、大学生に講義するレベルから難易度を落としすぎない内容で実施していただいた。

当日は、堂園先生の作ってくださったプリントを中心に講義が進められた。

ここからは、堂園先生の講義の実際である。

まずは、杜甫の七言古詩「茅屋為秋風所破歌」を使って、杜甫になりかわって考えてみよう、という問を提起し、現代語訳のみが書かれたプリントを生徒に配布し、それを読んで、後半の「どうにかして実現できたらなあ…」部分の後ろを生徒達に類推させた。その後、生徒に挙手させて発表させた。次に、実際の漢詩を生徒達に提示しながら、杜甫の考え方に言及し、杜甫がなぜ「詩聖」と呼ばれるのか、について解説した。



後半は、高校の授業で行った「春望」について、「なぜ「花」を見ると涙が流れ、「鳥」を見ると心が騒ぐ？（戦乱状態という「時」をいたむ気持ちと、「花」はどう関わる？ 家族との「別」離を悲しむ気持ちと、「鳥」はどうつながる？)」、「今の戦乱状態や家族との別離を悲しむ気持ちと、髪が少なくなつて役人としてふさわしい身なりができないという嘆きは、どのようにつながる？」という問を生徒に投げかけた。生徒に考えさせ、発表させた後、前半で言及した杜甫の考え方に基づいて「春望」の表現について解説を行って講義が終わった。



3. アンケートから読みとる生徒の興味・関心の変化

堂園先生の講義を受ける前後にアンケートを行い、中学、高校での漢文・漢詩の印象・好悪とその理由を聞いた。

(1) 特別講座実施前のアンケート

75名から得た回答結果は次のとおりである。

項目 1 (1) 中学のころの漢文の授業の難易度はどうでしたか。	1	易しかった	10	13.3%
	2	ふつう	36	48.0%
	3	難しかった	24	32.0%
	4	漢文の授業がなかった	7	9.3%
項目 1 (2) 中学のころの漢文の授業の印象はどうでしたか。	1	とても楽しかった	7	9.3%
	2	どちらかといえば楽しかった	27	36.0%
	3	あまり楽しくなかった	28	37.3%
	4	楽しくなかった	10	13.3%
	5	漢文の授業がなかった	6	8.0%
項目 3 (1) 高校の漢文の授業全般の難易度はどうでしたか。	1	易しかった	1	1.3%
	2	ふつう	37	49.3%
	3	難しかった	38	50.7%
項目 3 (2) 高校の漢文の授業全般の印象はどうでしたか。	1	とても楽しかった	12	16.0%
	2	どちらかといえば楽しかった	47	62.7%
	3	あまり楽しくなかった	14	18.7%
	4	楽しくなかった	4	5.3%
項目 5 (1) 高校の漢詩の授業の難易度はどうでしたか。	1	易しかった	4	5.3%
	2	ふつう	46	61.3%
	3	難しかった	26	34.7%
項目 5 (2) 高校の漢詩の授業の印象はどうでしたか。	1	とても楽しかった	12	16.0%
	2	どちらかといえば楽しかった	44	58.7%
	3	あまり楽しくなかった	15	20.0%
	4	楽しくなかった	6	8.0%

中学校のころの漢文の印象・好悪については、内容として難しいわけではないが、好悪を持つほどの印象ではないという結果である。記述回答を見ると、

- ・テストのために覚えるだけの勉強になっていたから (2 3)
- ・訳をすることなく、読む順番や型の名前だけだったので (2 2)
- ・原理とかがよくわからなかったから (2 2)
- ・あまり詳しく内容をやらなかったから (3 3)
- ・漢文を見てすぐに意味を理解することができなかったから (2 3)
- ・書き下し文に直すことくらいしかやらなかったから (2 3)
- ・読み方や暗唱ばかりだったから (2 2)

- ・詩などを暗記した記憶しかない（2 3）
- ・読む順番をかくくらいだったから（2 2）
- ・言葉・用法の説明などが殆どなく、その場限りで応用の利かない授業だったから（3 3）
- ・読む→説明する、でお終いだっただから（1 3）

記述回答の（ ）内の番号は、1つ目は項目1（1）、2つ目は項目1（2）に対応している。

とある。「簡単」であることは「楽しい」には必ずしも結びつかず、知的な満足感が得られないことへの物足りなさが表れていると読み取ることができる。また、「あまり記憶がない」あるいは「中学校では漢文をやっていない」と答える生徒も複数おり、漢文の分野においては、中学校学習指導要領にある「古典の世界に親しむ」「古典に表れたものの見方や考え方を知る」にさえ至っていないと考えられる。

高校での漢文・漢詩の授業の印象・好悪は、難しいけれど楽しいと捉えている生徒が多いことが窺える。また、漢文の中でも、文章より漢詩の方が好悪が分かれるようである。記述回答には、

【漢文】

- ・漢文・読み方が難しいが、話の内容がわかってくると楽しい（3 2）
- ・意味や文法がわかるとおもしろく感じたから（3 1）
- ・歴史と一緒に学べたから（3 2）
- ・中学でやってこなかった分、故事成語の成り立ち、時代背景を知ることができて楽しかった（2 2）
- ・その頃の中国の様子などを一から勉強して、少し苦手意識が薄れたので（3 2）
- ・文法がわかった上で文を読むことができるのでおもしろいが、内容があまりおもしろくない（2 2）
- ・中学に比べ内容は難しくなったが、理解できると話がつながった感じがしておもしろかった（2 2）

記述回答の（ ）内の番号は、1つ目は項目3（1）、2つ目は項目3（2）に対応している。

【漢詩】

- ・ストーリーがあまりなくてわかりにくいから（2 3）
- ・その作者の考えや思いを知ることが楽しかったから（2 1）
- ・短い句の中にいろんな感情や意味があっっておもしろい（2 2）
- ・漢詩は短くてルールも多いのにすごくレベルが高くておもしろい（2 1）
- ・短すぎて1つ1つの話の内容がわからなかった（2 3）
- ・規則がしっかりしていてきれいだと思った（2 2）
- ・「詩」というのがピンとこない（2 3）
- ・今までに見たことのある有名な漢詩を改めて勉強して意味を深く知ることによって、おもしろいと思えるようになった（3 1）
- ・一つ一つを理解するのに時間がかかる（3 3）
- ・情景を思い浮かべるのが難しい（3 2）
- ・内容が深い！それも韻をふんでいて、なのに意味が伝わってきて感動！（2 1）
- ・意味がわからない（3 4）
- ・あまり詩の意味が理解できなくて、イメージが全然浮かばなかった（2 3）

記述回答の（ ）内の番号は、1つ目は項目5（1）、2つ目は項目5（2）に対応している。

(2) 特別講座実施後のアンケート

堂園先生の講義を受けた直後のアンケートでは次のような結果になった。

項目 1 2 講座の内容の難易度はどうでしたか。	1	易しかった	8	10.7%
	2	ふつう	53	70.7%
	3	難しかった	14	18.7%
項目 1 3 杜甫、漢詩への理解についてはどうですか。	1	理解が深まった	65	86.7%
	2	深まらなかった	2	2.7%
	3	どちらともいえない	8	10.7%
項目 1 5 講座を終えた現在での、漢文、漢詩についての興味・関心はどうですか。	1	好きだったがさらに好きになった	8	10.7%
	2	好きだったところから変化はない	3	4.0%
	3	好きだったがあまり好きではなくなった	0	0.0%
	4	好きでも嫌いでもなかったが好きになった	22	29.3%
	5	好きでも嫌いでもなかったところから変化はない	18	24.0%
	6	好きでも嫌いでもなかったが嫌いになった	1	1.3%
	7	嫌いだったがわりと好きになった	8	10.7%
	8	嫌いだったがそんなに嫌いではなくなった	11	14.7%
	9	嫌いなところから変化はない	3	4.0%

生徒に評価の理由を自由に記述してもらったところ、

- ・今では感じることでできない花や鳥を見たときの戦乱に対する思いなど（3 1）
- ・作者の人間性・性格も知った上で詩を読むととらえ方が少し変わった（2 1）
- ・作者の人生や時代背景も踏まえて考えると理解できるところが増えておもしろかった（2 1）
- ・杜甫の「春望」の心情は理解したが、正直自分はそうとは思えず、納得はあまりできなかった（3 3）
- ・一人の人物について追うことは初めてだったので、新鮮で少し難しかったけど、おもしろさが理解できたかなと思う（3 1）
- ・儒教のような考え方をしていると知って、1つ目の詩にも「春望」にもその考えが表れたところを読み取れたから（2 1）
- ・普段の授業でやらないところまで深くできたから（2 1）
- ・今まで知らなかったことを知れたし、杜甫の魅力について理解が深まった（2 1）
- ・杜甫の世界観は難しいです。自分と何かを対比し、詩の中で戦争の激しさを表現しているのは何か変な感覚です（2 3）
- ・押韻や詩仏、詩仙、詩聖に込められているそれぞれの意味が少しずつ理解でき、漢詩に近づけた（2 1）
- ・杜甫の感じ方などを、自分と対比してより深く考えられた（2 1）
- ・視点を変えると違うところが見えてくる（1 1）
- ・押韻にあんなにも意味があるとは知らなかったもので、今度漢詩を見るときはそこも気にしてみようと思う（2 1）

- ・授業の内容をより掘り下げた内容の講座だったのでより理解が深まったと感じた（1 1）
- ・杜甫の人間性を知ること、漢詩の文章には書かれていない考えや主張などがより杜甫が考えたものに近い形で読み取ることができたように感じた（2 1）
- ・共感するところや自分と違う考え方があるということがわかった（2 1）
- ・文の内容だけでなく筆者の状況まで学習する点が高校と違い、難しいと思った（3 1）

記述回答の（ ）内の番号は、1つ目は項目12、2つ目は項目13に対応している。

また、漢文、漢詩についての興味・関心は、講義前にどの段階にいた生徒もほぼ全員がよい方にシフトしている。記述意見には

- ・今回の講義で、漢文・漢詩の堅苦しいという思い込みが消えました（4）
- ・杜甫の世の中に対する考え方に共感をもてました。ですが、なぜ、そんなに素晴らしい杜甫がこんなにも貧乏なのかが気になりました（4）
- ・（生徒同士の発表を受けて）人それぞれとらえ方が違って、意見を交換することが楽しかった（4）
- ・戦乱があったとき、人々は荒れた地から生えている花などを見て、涙を流すことがあり、それはきっと大きな地震がきたとき、私たちももしかしたら感じるのではないかと思います。国語は苦手でしたが、少し興味を持つことができました（4）
- ・その詩自体が何を訴えているか、だけでなく、各句がどんな効果をもっているのかをもっと知りたい（6）
- ・どうして花で喩えているのかなど、訳や文法だけでなく、使われている表現まで考えると、とてもおもしろいと思いました（4）
- ・杜甫についての理解が深まってとてもよかった。他の人についても知りたいと思った（1）
- ・自分が疑問に思っていないところについて先生は疑問に思っていて、すごいと思った（4）
- ・漢詩のおもしろさや文から読み取れることがたくさんあることに気づける講座でした（5）
- ・作者の傾向などから、内容を理解する手がかりが得られるということがわかりました。漢詩は文字数が決められていて、分かりにくくて好きじゃなかったけど、今日の講義で少し興味を持ちました（8）

記述回答の（ ）内の番号は、項目15に対応している。

生徒たちの自由記述から、漢詩に対する興味・関心の高まりのみならず、杜甫と自分との考え方との比較、漢詩の世界観や杜甫の心情と現在の社会とのつながり、他者の考えを受けとめ認める姿勢、など、副次的な効果があったことが見受けられた。

4. おわりに

今回の試みは、漢文、特に漢詩に対する興味・関心の涵養という点では、ある程度成果が出たといえよう。ただ、単発的に大学の先生に講義をしていただく、ではおそらくこの結果は出なかったように思う。「高校の授業を深く掘り下げた」「普段の授業でやらないところまで…」と生徒の記述にもあるように、高校の授業での予備知識があるからこそ、大学の先生の講義についていけた、ということも重要である。堂蘭先生は生徒たちに「本当におもしろいことは難しいを乗り越えたところにある」とおっしゃって講義を始められた。その言葉を聞いた生徒たちには、講義時間中いい緊張感が漂っており、話し合

いや生徒相互の教え合い、といった一般的にアクティブラーニングと言われるような活動は行われなかったにもかかわらず、生徒たちは講義時間をとおして思考をアクティブに働かせ、結果として、多くの生徒がこの授業で達成感を得たと考えられる。

今回の試みでは、①基礎力を定着させること、②その上で少し高い内容を提示し、③自分で思考する問を与え、④思考したことを表現する場を用意すること、⑤そこで更に高次の内容を提示する、という過程を辿った。生徒が興味・関心を持ち、意欲的に取り組むようにするための1つのパターンとして、今後、様々な教材で実践を試みていきたい。

5. 謝意

愛知教育大学国語教育講座 堂菌淑子先生には、本実践にあたって多大なるご指導、ご支援をいただきました。本当にありがとうございました。

参考資料

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編」（文部科学省）